

災害に強いまちづくりへ向けて！

「午前9時、和歌山県南方沖を震源とする南海地震が発生。愛南町では震度6弱を観測」との想定で、「船越湾内自主防災会合同防災訓練」が行われ、船越湾内の7地区の自主防災会をはじめ地元消防団、消防防災航空隊、愛南消防署、愛南警察署、地域住民など総勢約800名が参加しました。

今回の防災訓練は、自主防災会を中心に地域住民と防災関係機関が協力してより実践的な訓練を行うもので、高台への避難、情報収集・伝達、救出・救助、炊出し・配給などのほか、消火器等による初期消火や身近にあるものを利用した応急手当など、住民参加型の訓練として実施されました。



8/28 防災フォーラム「防災文化の創造にむけて」

今年の防災フォーラムは、「地域に密着し機能する持続可能な防災地域社会システム（防災文化）の創造にむけて」をテーマに、「新たな防災文化の創造に向けてー東日本震災からの教訓ー」と題した古玉忠昭岩手県宮古市立愛宕小学校長の基調講演と東日本大震災の発生を受けてからの新たな取組についてパネルディスカッションが行われました。



パネルディスカッションから見えてくるテーマの意味 (森 伸一郎准教授のまとめ)

地域に密着し	今を生きるどの世代も深く関わり
機能する	日々の暮らしの中で作り上げて、いざというときに役に立つ
持続可能な	一層の少子高齢化社会になっても、社会に何かをしてもらおうというのではなく、自分が社会に何ができるかを考え、科学知識や技術とともに、文化や過去の歴史から風土を学び
防災	災害に備えて自分が家族や地域のためにすべきことを考え、話し合い、理解し合い、実行し、いざ災害が起きれば家族や地域が助け合い支え合って、復興するために話し合いを実行することが自然とできる
地域社会	そういう共同体であり続けるという共通の意思を持つならば
システム	それを防災文化と呼べるだろう。そのような防災文化を、つむぎ、もやいでいきたい。